

●炭焼き釜の再着火 出来栄は？

今年の炭焼き体験は技術の伝承には大変深い学習の場になってきました。まず去年の経験から同じように着火を行ったら、途中で燃え上がらなくなって窯を覗くと着火ができていなかったこと、それは天井までの間に大きな隙間があって火つけ焚口の火が原木に燃え移らなかったことが原因のように考えられました。それで再着火の場合にこれを考え、かなり火の付きやすいように詰めなおして再着火に挑みました、そして9日経過して窯をのぞいてみると、前回の時より生産した炭は多量のように見えました。しかし下部には燃え残りのものが多少あるようで完全に炭化できていないところもあるようです。17日には窯出しを行いますのでご覧になっていただきたいと思ひます。



焼きあがった炭窯の中

●京都府の2020年度交響プロジェクトによる7つの取組のまとめができる

京都府山城振興局に4月頃交付金申請を大釜さんを中心にして提出しました。運よく審査の結果採用されまして、交付が決定、取り組みが開始、申請内容は以下にあるように7事業を行いました。

①里山活動をフィールドにした、自然を活かした取組

里山農園を中心に子どもたちが来られて楽しく栽培や探検、観察、調査活動を繰り広げました。その中で普賢寺小学校から4年生の事業に支援の要請があり、昆虫、魚、植物の3分野について里山の会から応援に出掛け詳しい解説を行って、生徒さん全員から感謝の手紙が届きました。そのほかいつものように夜の生き物観察会やヤマトサンショウウオやオオムラサキの観察調査、また、これまでの強風で大きなクヌギやコナラが倒れていたのを植樹祭を取り組みドングリの幼木を植え付けました。こうした取り組みを通じ、子連れの若いお母さんたちが入会いただくなど、活気が出てきました



植樹したアベマキ

②親子で遊ぼう学ぼう魚とり

これまで年間8回の計画をするなど夏の取組を賑やかに行ってきましたが、寄る年波にスタッフの多くが勝てず、今年は4回宇治地域 久世郡地域、旧綴喜郡地域、そして旧相楽郡地域に開催日を当てはめて4回の実施としました。特にコロナウイルス感染防止のために内容を工夫して行いました。いつもの夏ですと多雨や豪雨に悩まされて、川の状況に左右されるのですが、それが全くなく、すべて計画通りに消化することができました。少し物足りない点もありましたが、多くの皆さんが魚とりを親御さんと一生懸命に楽しんでおられました。来年もやってほしいとか、もっと大きな魚が取りたいなどの声が聞かれました。

③中聖牛の組立設置

9月初旬に第一回目の組立を行いました。その経験を生かして里山の会のメンバーが指導を頂く、静岡県の原小組さんの力添えを得なくても、自力で組み上げることができました。これまでの3回の取組を通じて有田さんには、手順をしっかりと学び記録取ってほしいとお願いしてきました。また事務局会議の出席者には、割り箸を渡して中聖牛のモデルを各自組み立てていただくなどを行いました。合計6台の模型が出来上がり、この経験が実際の組み立てる時の随分役立ちました。今取り組んでいるのは、あの時のこの部分であると分かりスムーズに進行できることになりました。机上の論だけでなくそれぞれが経験してきたのでずいぶん深く理解できていたので、思ったよりうまく美しく出来上がりました。ご奮闘いただいた皆さん本当にご苦労様でした。

④竹蛇籠製作講習会

何よりも均一の整った材料の調達が第一です。これまであちこち真竹を探しましたが、ようやくの適当な場所が見つかりました。そして竹割りも経験を積んで上手になり、割りたてで柔軟性のある間に編むことにしましたので昨年より少し苦労が少なくなりました。原小組の社長は「里山の会の皆さんの方が私たちより上手に製作されるように腕が上がりましたね」とほめていただくまでになりました。理事長も常務理事も闘病生活の中で皆さんに本当によくがばっていただきました。特に竹蛇籠8m物3本を追加するなどにも取り組んでいただきました。本当にご苦労様でした。

⑤カヌー体験

当初予定では場所、交通の便など悪条件が重なっているので成功するだろうかという不安が頭をよぎっていた。申し込みも方法もメールでの申し込み方法に変更しました。これだと受け付け業務がかなりというかほとんど簡略化され、以前と比べて効率化されます。こうした点も考えると、不安を払拭するほど大勢の方々をご参集されて、大きなイベントになりました。会場の場所は川幅が100mを超えてまるで池であるかのようだが、流れもあるという素人初心者でも簡単に教わった通りの操船が可能となって、参加者全員が楽しくカヌー体験を経験しました。感想文からの其のことが伺えます。出来ることなら次年度にも取り入れたいイベントの一つです。

⑥木津川生育植物写真集

里山の会の発足時から「あの花なあに」と多くの取組を企画してきました。その中でも木津川の植物は917種という種類が生育し、数十種がレッドデータブックに記載され、絶滅寸前種に指定されるほどの豊かな場所だと私たちの調査観察で判明してきました。植物を訪ねる活動を継続して25年なりますが、近年堤防の補強工事が行われ、10年前とは随分環境が変化しているし、レッドデータブックに指定されてきた植物も姿を見られなくなってきています。こうした時期に、沿川の植物をしっかりと記録し、後世に伝えられるようにするのも里山の使命と考えられるので、今回25周年を最適ととらえ出版に取り組みました。記載植物は660種に及び我々の力量からすれば限界に近いところまでの取組といえるのではないかと思います。花の開花の時期や時間、天候を考えると莫大な時間がかかっていたの作品です。

⑦地域説明会

山城地域の木津川の沿川では、木津川はどんな川だとの説明はほとんど行われてきませんでした。木津川の起点はどこだったかなあ、と疑問を持つ人はかなり限定されてきています。こういった疑問に答え、また山城地域の歴史なども伝えられる場所や機会として、里山の会が取り組んできました。ご来場いただいた方々は時間を気にせず、しっかりと展示物をご覧になっておられました。開催者としてうれしい場面であります。特に里山の会の得意技である植物の生育からの迫り方も新鮮さがあるのかもしれない。こうした取り組みは交響プロジェクトの交付金があるので開催が可能であり、自己資金だけではなかなか開催できない取り組みです。